

Offshore 4 1987

掛 日本外洋帆走協会発行 No.145/300円

法人 昭和62年4月15日発行(毎月1回15日発行) 昭和52年7月21日第三種郵便物認可



YAMAHA OSAKA CUP'87

左がレースコミティーのサンドリンガムヨットクラブ前会長のダグラッセル氏、
右は現会長のダンカン氏 (於：メルボルン)

速報

YAMAHA OSAKA CUP メルボルン／大阪 ダブルハンドヨットレース1987



キャンベラが首都になるまでオーストラリアの首都であったメルボルン、シックで威厳のある建物が多い



庶民の胃袋を満たすビクトリアマーケット
日本の食品に比べて約1/10～1/20でなんでも品ぞろえが可能



コミッティーボート〈ストロベリーガール〉

First Leg

スタートは、3月21日（土）10時にメルボルン市が所有する大型ヨット船上より大阪市長、大島 靖氏によって号砲が鳴りひびき61艇が一斉にスタート。約45マイル南のライ市沖にあるピアまで覇を競った。

着順は、ニュージーランドの〈キャスタウェイ〉が1位となったが、スタート時にリコールしていた為、着順2位でフィニッシュした堀江謙一氏の〈ベンガルⅢ〉が優勝となり約13分遅れでフィニッシュした〈SDC 波切大王〉が2位に入賞した。

スタート地点はメルボルン港内ステーション沖で、スタートラインはステーションピアから北へ約500メートル離れたコミッティーボート〈ストロベリーガール〉との見通し線であった。当日早朝は、小さな前線の通過があり小雨模様だったが、スタート時の午前10時には雲となり雨はやんだ。風向は南西の風約7 m/s、スタート10分前の号砲は、ヤマハ発動機の小宮功常務が、そしてスタート号砲は、大阪市長、大島 靖氏が行なった。当日ステーションピアでは、自転車に乗ったバンド・ピエロ等の大道芸が行なわれ、アドバルーンが上り、また、スタート30分前には5機のジェット戦闘機による歓迎のデモンストレーションまでであり、いやが上にも大会を盛り上げていた。

ピア、そして応援艇、観覧艇の観客数は約3,000人、ヘリコプターによる取材も13機を数えた。

右の表は、FIRST LEG の成績表。

スタート3/21 10時

順位	No.	艇 名	艇 長	フィニッシュ時間	クラス
1	21	BENGAL III	K.HORIE	15 22 24	A
2	46	SDC NAKIRI DAIO	W.TOMPKINS	15 35 58	A
3	57	GUNZE ZEG	G.ODA	16 05 25	A
4	61	SCARPA	T.VICK	16 32 27	A
5	50	SEA BRAKE	G.HUMPHREY	16 38 16	A
6	26	KOBE GOUFRES	Y.SANO	16 38 20	B
7	52	KIRRIBILLI	D.ADAMS	16 40 38	B
8	18	SITIKA	B.HUNT	16 43 37	A
9	82	QUICKSILVER	B.SMITH	16 53 42	B
10	15	REWARD	J.LIDGARD	16 54 36	C
11	4	DONGAME VIII	Y.WATANABE	16 59 47	B
12	17	HAVE KNOTS	B.OXLEY	17 00 59	A
13	96	QUICKSILVER	N.RAILTON	17 02 32	A
14	66	KOOKABURRA II	R.KNOTT	17 15 30	B
15	40	MELSAKA	G.WARNER	17 19 18	B
16	69	TSUBAKURO	M.KOUMURA	17 34 34	B
17	74	SECOND GLANCE	P.HANNS	17 36 08	B
18	34	JOSEPHINE	W.GRAM	17 41 01	C
19	35	GRAYHOUND	K.GRAY	17 41 21	A
20	49	RENEGADE	T.SMITH	17 46 40	B
21	3	OIDON	K.FUJITA	18 07 40	B
22	37	STARWAVE	J.KERKVLIT	18 17 25	C
23	65	BRUMBY	H.JONES	18 24 53	C

A : レースクラス 12~16M

B : " 10~12M

C : クルーザークラス 10~16M



第1レグ Bクラス優勝の〈コウベゴーフル〉



メルボルン市長の所有艇
市長が乗船の時には一番上に市長のバースがあげられる



スタート後トラブルの為ピアに戻ってきた〈ぼへみあん〉

Second Leg

第2レグは3月22日(日)13時に、ポートシーにあるポートシージェティーと、本部艇〈ストロベリーガール〉との間で、59隻が一斉にスタートした。

スタート時には8m/s前後と良い風に恵まれ、風下よりスタートの〈波切大王〉と〈キャスタウェイ〉がまるでIORレーサーのように飛び出していった。このままの順位でフィリッパ湾口入口をまず〈波切大

王〉、そして〈キャスタウェイ〉が通過してゆく、この2艇は今大会の最大のライバルである。〈波切大王〉はトンプキンス氏と大儀見氏が乗り組み、かたや〈キャスタウェイ〉にはウィッドブレッド世界一周レースで2回艇長をつとめたディグビーテイラー氏が乗り組み、この他に有力な艇としては日本から参加の〈ベンガルII〉、〈コーデンオケラ〉、〈ドクターライ〉、〈グンゼゼグ〉、また、オーストラリアから参加の〈アルスター〉等があげられる。

下の表は、4月3日 05時00分の各艇の順位。

レース最新情報

〔日本時間4月3日(金) 05:00現在〕

C.L.S.-ARGOS 02-Apr-87 AT 23:16 GMT

No.	Boats	Skippers	Entry Number	CL	Nationality	Dist. To Finish	Latest positions			
							Lat	Long	Dates	
1	SDC NAKIRI DAIO	TOMPKINS W.	46	RA	JAPAN	3097	13 18 S	155 27 E	092/2004	
2	DRRAI	OKAMOTO R.	39	RA	JAPAN	3260	16 36 S	157 4 E	092/2003	
3	ALSTAR	BURGIN A.	95	RA	AUSTRALIA	3261	17 8 S	152 47 E	092/2005	
4	KODEN OKERA VII	SAITO S.	7	RA	JAPAN	3379	17 35 S	157 31 E	092/2004	
5	QUICKSILVER	SMITH B.	82	RB	NEW ZEALAND	3381	18 50 S	154 4 E	092/2005	
6	BENGAL II	NIWA T.	1	RA	JAPAN	3384	16 5 S	161 16 E	092/2003	
7	KIRIBILLIE	ADAMS D.	52	RB	AUSTRALIA	3388	18 14 S	156 14 E	092/2003	
8	SIR ISAAC	HOLT R.	19	RA	U.S.A.	3392	18 18 S	156 13 E	092/2004	
9	CASTAWAY FIJI	TAYLOR D.	81	RA	NEW ZEALAND	3393	18 16 S	156 23 E	092/2004	
10	SCARPA	VICK T.	61	RA	AUSTRALIA	3412	19 11 S	154 40 E	092/2004	
11	REWARD	LIDGARD J.	15	C	NEW ZEALAND	3423	19 20 S	154 46 E	092/2005	
12	GOLDAIR ASTRAL ROSE	KENDALL G.	9	C	NEW ZEALAND	3468	20 16 S	164 17 E	092/2006	
13	MELSAKA	WARNER G.	40	RB	AUSTRALIA	3513	21 9 S	154 1 E	092/2005	
14	SITKA	HUNT B.	18	RA	AUSTRALIA	3524	20 2 S	156 35 E	092/2005	
15	DONGAME VIII	WATANABE Y.	4	RB	JAPAN	3532	20 22 S	157 24 E	092/2003	
16	SECOND GLANCE	HANNS P.	74	RB	NEW ZEALAND	3535	20 31 S	157 8 E	092/2004	
17	MARARA	GALLISSIAN C.	36	C	FRANCE	3537	20 33 S	157 8 E	092/2005	
18	RENEGADE	SMITH	49	RB	NEW ZEALAND	3539	21 31 S	154 20 E	092/2005	
19	TSUBAKURO	KOMURA M.	69	RB	JAPAN	3561	21 4 S	156 51 E	092/2005	
20	GUNZE ZEG	ODA G.	57	CA	JAPAN	3567	21 26 S	156 7 E	092/2004	
21	OIDON	FUJITA K.	3	RB	JAPAN	3599	21 43 S	166 56 E	092/2005	
22	PECO	JOHNSON P.	22	C	NEW ZEALAND	3604	22 25 S	155 4 E	092/2005	
23	KNOT GUILTY	WHITE C.	64	RA	AUSTRALIA	3618	22 12 S	156 34 E	092/2005	
24	DUGONG	SPENCE H.	41	RA	AUSTRALIA	3626	20 32 S	161 20 E	092/2005	
25	MELUSINE III	GEORGANN H.	84	RB	U.S.A.	3687	23 4 S	157 41 E	092/2005	
26	BOHEMIAN	EDOKINS T.	73	RB	AUSTRALIA	3703	23 46 S	161 36 E	092/2005	
27	S & B FRESH O2	UTSUMI A.	31	C	JAPAN	3703	23 35 S	156 53 E	092/2005	
28	SUNCHASER	RANDELL I.	91	C	AUSTRALIA	3706	24 16 S	154 58 E	092/2007	
29	DEVONA	YOUNG M.	54	C	NEW ZEALAND	3706	24 17 S	154 53 E	092/2006	
30	SAILA	YOTSUMOTO I.	38	RB	JAPAN	3716	23 41 S	157 17 E	092/2006	
31	GIN RUMMY	MEIER M.	87	C	AUSTRALIA	3722	24 38 S	154 37 E	092/2006	
32	STARWAVE	KERKVIJET	37	C	AUSTRALIA	3733	23 46 S	161 36 E	092/2005	
33	BRUMBY	JONES H.	65	C	AUSTRALIA	3739	22 23 S	161 47 E	092/2005	
34	ALPHA CUBIC	HISHIYAMA Y.	44	RB	JAPAN	3754	25 4 S	155 3 E	092/2007	
35	HEART OF GLICO	OKAMOTO T.	8	RB	JAPAN	3760	24 36 S	156 53 E	092/2007	
36	MALEW OF MAN	WOOD D.	86	C	AUSTRALIA	3767	22 28 S	162 48 E	092/2005	
37	TERRA AUSTRALIS	JEFFERYS B.	67	C	AUSTRALIA	3772	25 13 S	155 36 E	092/2006	
38	ZOO	SAKATA S.	60	RB	JAPAN	3776	24 12 S	158 51 E	092/2005	
39	GEMMA	PROUT G.	30	C	NEW ZEALAND	3777	23 52 S	159 50 E	092/2006	
40	MEIGE	DURANTE A.	25	C	FRANCE	3794	23 40 S	161 9 E	092/2006	
41	SNOW GOOSE III	HEALE P.	77	RB	AUSTRALIA	3800	23 57 S	160 42 E	092/2005	
42	TAITOA	SWAN R.	29	C	NEW ZEALAND	3808	24 5 S	160 42 E	092/2006	
43	THELEME	DUFFAU R.	53	C	FRANCE	3815	24 5 S	161 4 E	092/2006	
44	KOOKABURRA II	KNOTT R.	66	RB	AUSTRALIA	3817	26 41 S	153 12 E	092/2007	
45	MAWINGO	HUMPHREYS B.	56	C	NEW ZEALAND	3862	26 20 S	157 8 E	092/2006	
46	SOUTHERN SOJOURN	BRETTEINGHAN N.	10	C	AUSTRALIA	3881	26 0 S	159 6 E	092/2007	
47	ANACONDA	WILKINSON T.	97	C	AUSTRALIA	3893	27 58 S	153 26 E	092/2007	
48	TASAKI SHINJU YATCHAN	KUWAGATA S.	24	C	JAPAN	3906	27 22 S	156 17 E	092/2006	
49	RAKOA	GILLIVER D.	43	C	NEW ZEALAND	3926	27 12 S	157 57 E	092/2006	
50	LE MUTIN	ESPLAAS J.L.	23	C	FRANCE	3992	27 57 S	159 11 E	092/2007	
51	BORIS B	V.BERKHOUT J.T.	68	C	NETHERLANDS	4122	29 29 S	161 27 E	092/2007	
52	BROWNS CREEK GOLD	ERIKSSON D.	71	C	AUSTRALIA	4246	33 13 S	151 42 E	092/2009	

Unplaced Boats		Latest positions		
Boats	Skippers	Lat	Long	Dates
HAVE KNOTS	OXLEY B.	-33.205	+153.490	089/1136
BENGAL III	HORIE K.	-33.825	+151.214	089/1136
KOBE GAUFRES	SANO Y.	-33.874	+151.234	086/1822
JOSEPHINE	GRAN W.	-33.876	+151.233	089/1135
GRAYHOUND	CRAY K.	-27.966	+153.444	092/0554
BUDGET OF THE ORIENT	HANSEN P.	-37.071	+149.909	090/2234
CITY OF ADELAIDE	WILKINSON M.	-37.073	+149.909	089/1134
SEA BRAKE	HUMPHREY K.W.	-30.053	+155.779	089/0957
BAHLOO II	PEERS J.	-32.175	+152.494	088/2135
GEMINI 5	SMEATON P.	-37.110	+149.928	089/1135
SHUTEN DOHJI	BRUCE A.	-33.853	+151.166	089/1135
QUICKSILVER	RAILTON N.	-29.426	+155.649	089/0958

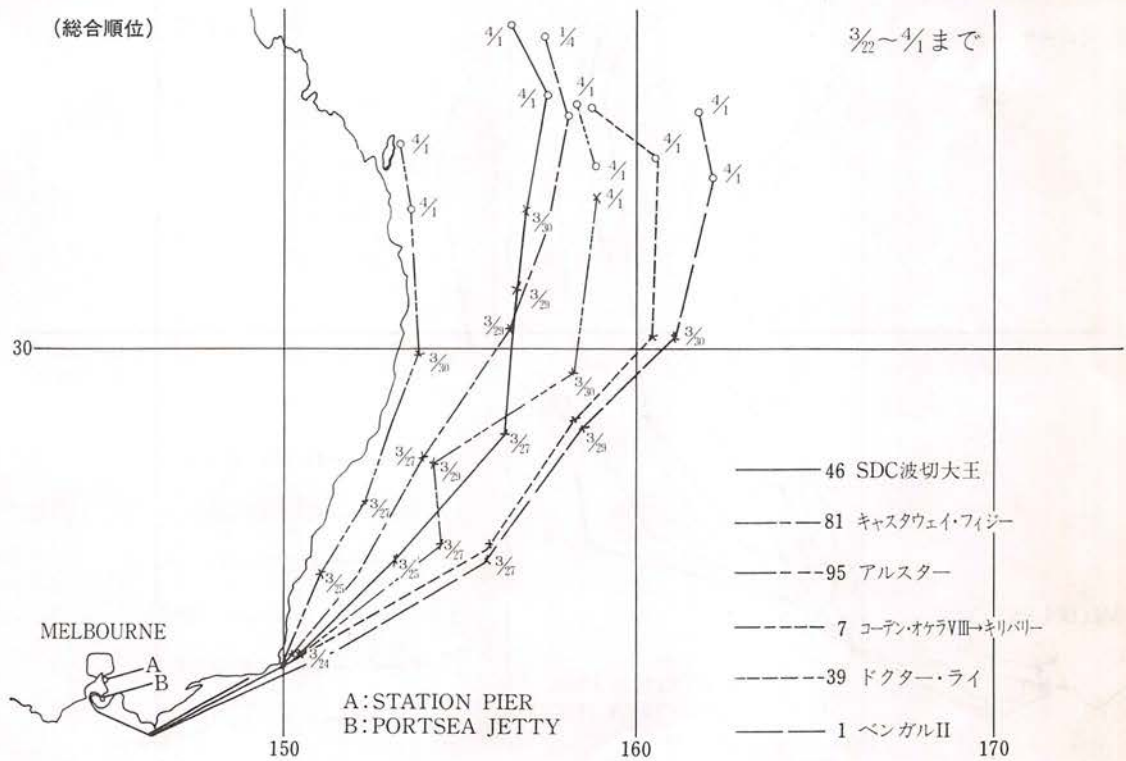
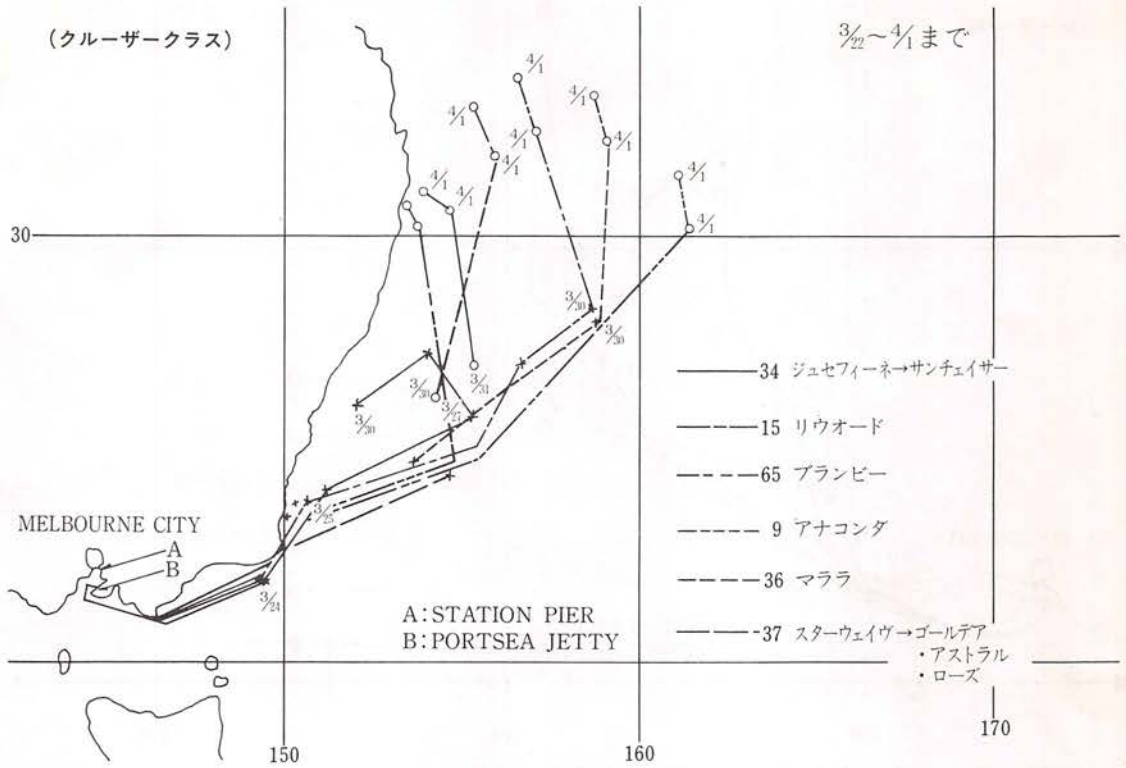
4/2 10:30現在のエントリー内訳

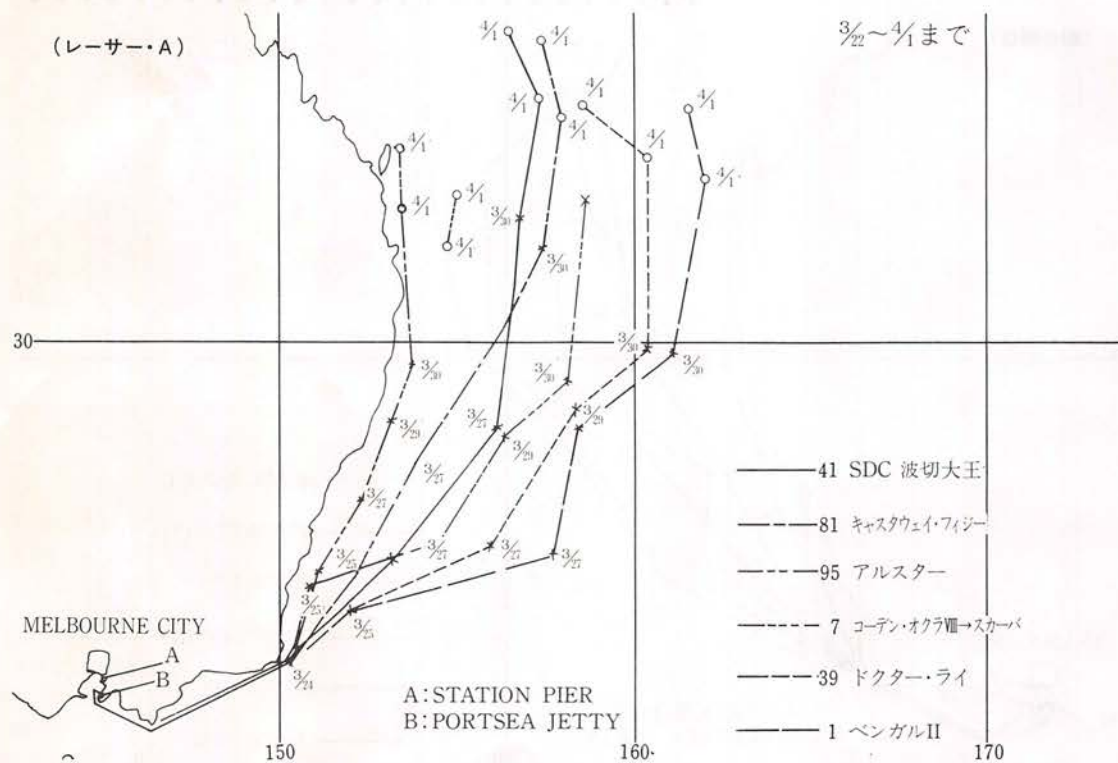
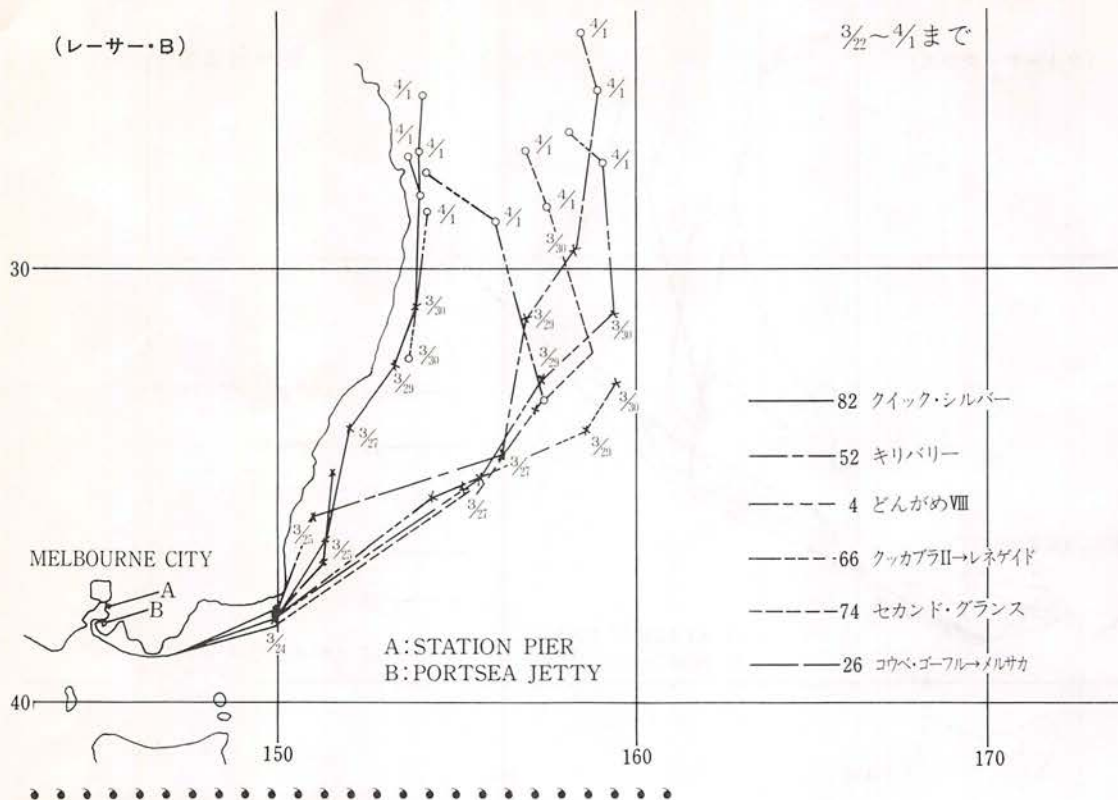
	レーサーA	レーサーB	クルーザー	計
日本	5	7	2	14
オーストラリア	6	5	8	19
ニュージーランド	1	3	8	12
フランス	0	0	4	4
アメリカ	1	1	0	2
オランダ	0	0	1	1
6か国	13	16	23	52

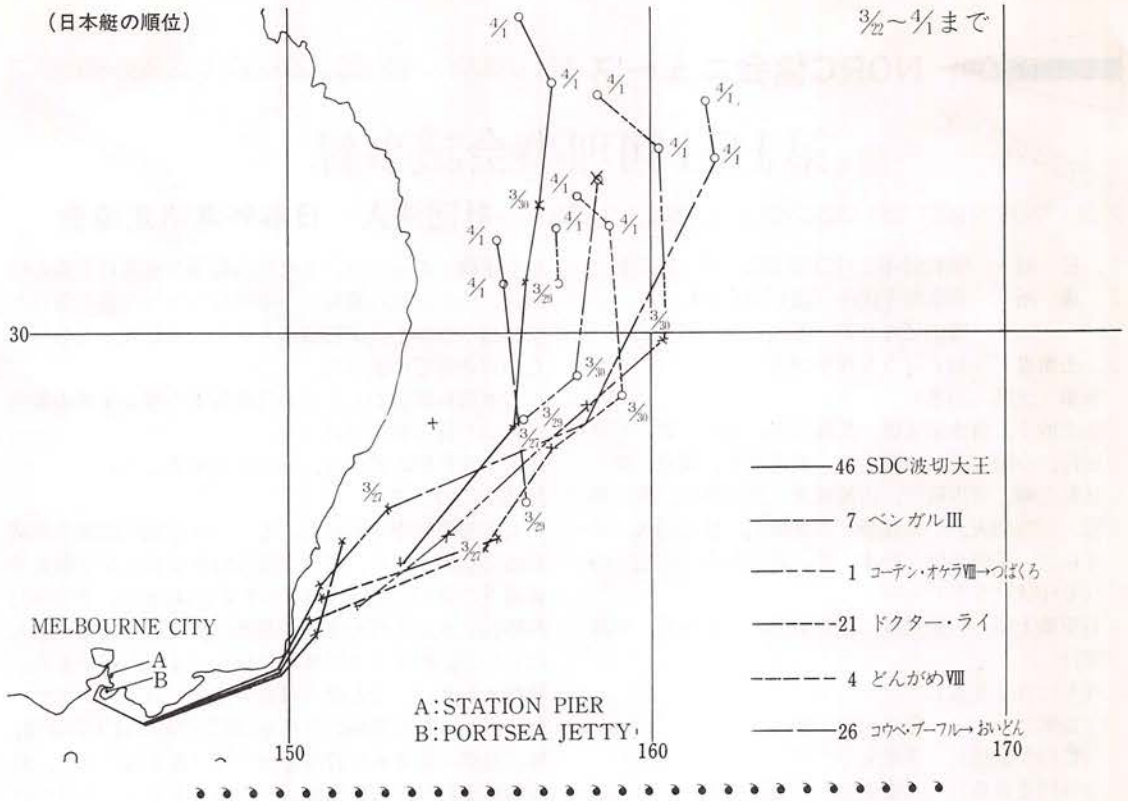


第2レグ グレアゴリーヨットクラブより数マイルの
ところにあるポートシーより59隻が一斉にスタート
風下より抜群のスタートを切ったのは〈波切大王〉
その後ろにはライバルであり優勝候補の〈キャストウェイ〉
がせまる









NORC 主催のパーティーが3月22日夜8時より S. Y. C
にて開催された。このパーティーは延々約5時間にも
およんだ。



左から松木先生 ブラック氏 ニューマン氏のコミッティの面々
武 市 氏



左がレースコミッティー ワット氏と清水氏
かわいい女性は篠原氏のお嬢様



左、コミッティの篠原氏



ダグラッセル氏 中央秋田副会長 右ダンカン氏 渡辺氏



NORC協会ニュース

第101回理事会議事録

社団法人 日本外洋帆走協会

1. 日時 昭和62年2月21日(土)12:30~15:45

2. 場所 東京都千代田区霞が関3-2-4

霞山ビル9F 霞山会館

3. 出席者 33名(うち理事28名)

理事(出席 23名)

秋田博正, 清水栄太郎, 久保和男, 朝河 清, 石井正行, 今岡又彦, 清田 博, 児玉萬平, 篠原 要, 林寛之輔, 宮坂敬三, 山崎達光, 渡辺修治, 柴田邦敏, 川端治夫, 小林義彦, 都築勝利, 秋山福夫, 三井祥功, 平岡英信, 松本 哲, 岩田行史, 末松 明(委任状 5名)

石原慎太郎, 大儀見薫, 矢野敏邦, 山田東吾, 城間祥行

理事以外(5名)

(監事) 飯島元次・横山 晃

(顧問会議長) 平松栄一

(専門委員長) (安全) 長江博人

(泊地対策) 平野喜美夫

4. 議 題

(1)昭和61年度事業報告及び収支決算報告

(2)昭和62年度事業計画及び収支予算案

(3)IYRR 第26条の件

(4)新入会員の承認及び会員, 登録艇の現状

(5)昭和61年度会費滞納者(除名予定者)の取扱い

(6)支部及び専門委員会報告

(7)その他

5. 議 事

12:30 秋田副会長の司会により開会, 久保常務理事から出席理事28名で理事30名の過半数である旨の報告があり, 本理事会の成立を確認, 秋田副会長が議長となり議事録署名人に宮坂, 今岡両理事を指名し議事に入った。

議題(1)について

久保常務理事から, 資料にもとづき, 昭和61年度事業実施内容の報告があり, 続いて児玉財務委員長から決算報告書及び資料にもとづき, 61年度は事業補助金の返上という財政面での一大変革があったがその対応について, 各支部, 各委員会の理解を得て事業を推進した結果, 約76万円の黒字を維持することができた旨, また, 科目毎の収支を予算と対比した説明では, 会員入会金, 会友艇登録料, レース参加料等の大幅増が目立った旨の報告があった。

飯島監事から, 2月5日会計監査を実施したが適法

且つ正確であった旨, また横山監事から業務監査の結果は, 法令定款に違反する事実はなかった旨の報告と会員増の施策を長期展望にもとづいて研究してもらいたい旨の要望があった。

清水専務理事から2月19日運輸省へ収支決算の報告を行った旨の報告があった。

若干の質疑応答の後, 本議案を承認した。

議題(2)について

久保常務理事から資料にもとづき, 昭和62年度事業計画の説明があり, 続いて児玉財務委員長から収支予算書及び資料にもとづき, 本予算書は, 前回(第100回)理事会で承認された本部予算案に, 支部予算案を加えたもので, 昨年より30%増の約1億4千万円である。特徴としては, 会友艇登録費の支部配分, スポンサー付イベントへの積極的取組み, 事業ごとの収入の確保, 無線設備に対する投資枠の独立等である旨, また, 宮坂帆走委員長から, 本部レースのスケジュールについて, ジャパンカップ実施日の変更, 八丈島レースの復活, 日本海レース(ナホトカレース)の本部レースへの移管, 等について, 清水専務理事から日本カップマッチレース(11月)を本部レースに加えたい旨の説明があった。予算案について若干の質疑討論ののち, 原案どおり代議員会に附議することを承認した。

議題(3)について

石井ルール委員長から, IYRR 26条(広告)の件について資料にもとづき, 次の説明があった。NORC 外洋レース規則の改正案は第99回理事会(61.8.23)で承認されたが, IYRR 26条との整合化についての条文は総務・ルール合同委員会で検討することになり, 合同委員会を度々開催してきたが, そのころ IYRR が改正されこの件については, 根本的に再検討する必要が生じ, スポンサーシップ, 艇名表示等の問題に NORC としても明確なポリシーの樹立をせまられ, 第100回理事会(61.12.17)において, ルール, 総務, 帆走等の合同委員会で具体案を作成することとなり, 2月3日次の案を作成した。①IYRR 26条の解釈及び取扱いについては, ORC の対応, IYRU 及び諸外国のナショナルオーソリティの考え方を勘案し, 国際的に通用するポリシーを打ち出すべきであり, 時間をかけ慎重に審議することとする。②しかし, 一方ではレース運営面から, 艇名に関する具体的な問題が提起され対応にせまられるケースがでてきている。したがって①のポリシーが確立されるまでの間は, 「広告表示特

別委員会」(略称「26委員会」)メンバーは、大儀見、清水、宮坂、初鹿野、平松、石井、周東、藤田(享)の各氏)が処理に当る事とした。③レースでの冠スポンサーの援助については、従来どおり積極的に受入れる方針は変えない。

さらに、NORC 外洋レース規則改正(案)の提案説明があり、現行規則の末尾「最高審判委員会の人員構成」の但し書き、「ただし、総務委員は委員長その他、関東支部以外の支部長2名及び総務委員1名とする」を「ただし、総務委員は委員長その他、支部長2名及び総務委員1名とする」に改正することについて承認した。

また、清水専務理事から「NORC 船艇登録規程」及び「NORC 会友ならびに会友艇船艇登録規程」の改正(案)について、IYRR 26条が1986年 ORC 会議で大幅に緩和されたことに関連し、NORC 会員のコンセンサス、ポリシーが確立されるまで、従来のNORC の態度を保留するための担保として改正するものであるとの提案理由の説明があり、種々審議した結果「NORC 船艇登録規程第2条第1項」及び「NORC 会友ならびに会友艇船艇登録規程第2条」に「(3)艇名がIYRR(国際ヨット競技規則)第26条の1の規定に抵触しない艇であること。」を加えること、及び新規定は昭和62年2月22日から施行されることを承認した。

議題(4)について

久保常務理事から新入会員390名の会員別、支部別の入会状況について、清水専務理事から、1月に室蘭において29名が室蘭フリートとして入会があったことの報告があり、いずれも承認した。また、清水専務理事から、会員登録艇の現状報告があり了承した。

議題(5)について

歌田事務局長から、昭和61年度会費の滞納による除名対象予定者の391名を資料により報告、代議員会に附議することを承認した。

議題(6)について

イ 末松玄海支部長及び秋山理事から、オークランド・福岡ヨットレース(1989年4月～6月、オークランド・フィジー・グアム・福岡、アジア太平洋博覧会福岡'89、博多開港90周年、オークランド・福岡姉妹都市3周年、各記念)について資料により説明、報告があり、レースをNORCが主催すること等について承認した。

ロ 岩田西内海支部長から、ヒロシマ・カップレース(1989年4月～5月、ホノルル・広島、ホノルル広島姉妹都市30周年記念)について、資料により報告があり、主催は広島市及びNORC、NORCは広島市との間の業務委託契約により事業を推進する等について説明があり若干の質疑ののち承認した。

また、本年は、西内海支部設立20周年であり、これを記念して秋の理事会は、11月21日(土)広島で開催してもらいたいとの要望が提出され、総務委員会で

検討することとなった。

ハ 朝河理事から、日本海地区においてクルーザーレーティングによるレースが企画されており、その関連で日本海支部を設立したいとの意見がある。外洋帆走事業の推進、クルーザーレーティングの普及の見地からも日本海支部の設立を進めたいとの提案があり、地域の問題(近畿北陸支部及び玄海支部との地域重複)に関して質疑討論があり審議の結果日本海支部の設立を推進する方向で、関係支部との打合せ等作業を進めることとなった。

二 清水専務理事から、舵社が「全国プレジャーボート泊地総覧」として、セールボート、パワーボート等プレジャーボートのための本格的な泊地、港湾案内を「舵」誌上に連載し、水域ごとに単行本化する企画をたて、NORCに海洋レジャー関係団体への音頭とりと情報の提供を依頼してきている旨資料にもとづき報告があり、検討した結果、舵社の編集理念等につき、さらに調査し、次の理事会で再検討することとなった。

ホ アメリカズ・カップ・チャレンジ準備委員会委員山崎理事から、アメリカズ・カップについて、シンジケートで挑戦する案がかたまりつつある。NORCとシンジケートとの関係については検討中である。ご協力をお願いしたい旨の報告があった。

ヘ 平野泊地対策委員長から、資料にもとづき、現在建設計画中のマリーナについて、協力を惜しまず実現に努力している旨の報告があった。

ト 松本理事からメルボルン・大阪ダブルハンドヨットレースについて、予定どおり諸準備を進めている旨の報告があった。

チ 篠原通信委員長から、国際マリン VHF の免許運用に関する郵政省海上課との打合せについて、資料にもとづき大要次の説明があった。船舶局については、保安3波(Ch 6, Ch 12, Ch 16)及びNORC 全国共通波1波計4波を認める。通信機材は、現在頒布予定の GRE 社製品は全 VHF 波54チャンネル対応機であるので問題なく搭載できる。海岸局については、船間波の Ch 6を除く保安2波(Ch 12, Ch 16)及びNORC 専用船間・船陸間波1波(船舶局波と同じ)で開設を認める。現在免許されている中短波・短波周波数に加え、4125, 6215.5 KHZ 申請を認める。関西地区 SSB 局についても含む。なおアルゴスについては、電波行政面の免許においてはNORC 三崎ヨット海岸局に附属する実験局としての特殊な免許ということで予備免許を受けた形となっているものである。

リ 宮坂帆走委員長から、小笠原レースについて、来年は、小笠原返還20周年の年であり、6月24日前後に、例年どおりNORC主催のレースを実施してもらいたい旨、小笠原村及び東京都から要望されている。

時期的に沖縄レースとの競合が懸念されるが前向きに実施の方向で実行委員会において準備を進めたいとの提案があり、承認した。

ヌ 清水専務理事から、ORC から各国ナショナルオーソリティに対し、IMS 推進委員を報告するように求められている。技術委員会と総務委員会で協議し報告することとしたい旨の報告・提案があり、承認した。

他に質疑意見等はなく、以上を以て全議案を議了し、15:45に第101回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

昭和62年2月21日

議長	秋田 博正	印
署名人	宮坂 敬三	印
署名人	今岡 又彦	印

船舶検査等の手数料の改定について

昭和62年3月3日
運輸省海上技術安全局

船舶検査等の手数料については、費用負担適正化を図るため従来より3年に1回程度の割合で改正を行っているが、昭和62年度においても同様の観点から手数料の改定を行うものである。改定の概要は以下のとおりである。

1 船舶安全法施行規則関係

船舶検査関係手数料の額を平均13.6%引き上げるほか、小型船舶の定期検査及び第一種中間検査において、甲板船・無甲板船の区別を廃止する。(第66条及び別表関係)

2 網船構造規程関係

溶接量試験の合格証明書の交付手数料の額を12.5%引き上げることとする。(第483条関係)

3 危険物船舶運送及び貯蔵規則関係

危険物の積み付け検査、収納検査及び容器検査の手数料の額を平均13.7%引き上げることとする。(第130条関係)

4 穀類その他の特殊貨物船舶運送規則関係

船舶に穀類をばら積みして運送しようとする場合の穀類積載資料の承認等の手数料の額を平均13.4%引き上げることとする。(第33条関係)

5 海上における人命の安全のための国際条約及び満載喫水線に関する国際条約による証書に関する省令関係

条約証書の交付等の手数料の額を12.2%引き上げることとする。(第15条関係)

6 船舶安全法の規定に基づく事業場の認定に関する規則関係

製造事業場及び整備事業場の認定等の手数料の額をそれぞれ平均12.8%及び平均13.6%引き上げることとする。(第31条関係)

7 船舶等型式承認規則関係

型式承認及び検定の手数料の額をそれぞれ平均16.6%及び平均13.6%引き上げることとする。(第29条及び別表関係)

8 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律施行規則関係

焼却設備の検査等の手数料の額を平均13.5%引き上げることとする。(別表第四関係)

排出油防除資材の型式承認及び検定の手数料の額をそれぞれ平均16.6%及び平均13.6%引き上げることとする。(別表第五関係)

9 海洋汚染防止設備等検査規則関係

海洋汚染防止設備等検査関係の手数料の額を平均13.6%引き上げるほか、有害液体物質の排出防止に関する設備等の検査が4月6日から強制化されるのに備えて、当該検査手数料を新設した。(別表第一関係)

10 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律の規定に基づく事業場の認定に関する規則関係

製造事業場及び整備事業場の認定等の手数料の額をそれぞれ平均12.8%及び平均13.6%引き上げることとする。(第31条関係)

11 海洋汚染防止設備型式承認規則関係

型式承認及び検定の手数料の額をそれぞれ平均16.6%及び平均13.6%引き上げることとする。(第29条及び別表関係)

12 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律の一部を改正する法律の一部の施行に伴う経過措置を定める省令の一部改正関係

有害液体物質の排出防止に関する設備等の検査の手数料の額を平均12.4%引き上げることとする。(別表第二関係)

◎船舶検査手数料

検査の種類	船の長さ			
	3メートル未満	3メートル以上 5メートル未満	5メートル以上 10メートル未満	10メートル以上 12メートル未満
定期検査				
旅客定員が12人までの船舶	9,000円	12,400円	18,400円	23,400円
旅客定員が13人以上の船舶	12,400円	17,400円	25,400円	33,400円
中間検査				
旅客定員が12人までの船舶	4,000円	6,200円	11,000円	14,000円
旅客定員が13人以上の船舶	6,800円	10,000円	16,000円	21,000円
臨時検査又は臨時航行検査	臨検回数1回につき 4,700円			

(注)定期検査の手数料の額には、船舶検査済票の交付手数料1,400円を含んでいます。

◎検定

種 別		検定手数料 (円)
船 外 機	5馬力未満	4,300
	5以上 10未満	7,000
	10以上 25未満	7,600
	25以上 50未満	8,400
	50以上100未満	10,000
	100以上250未満	12,000
	250以上	14,000
小 型 船 舶 用 救 命 浮 環		100
小 型 船 舶 用 救 命 胴 衣		100
小型船舶用救命浮輪又は救命クッション		100
小 型 船 舶 用	電池式のもの	150
自 己 点 火 灯	電池式以外のもの	60
小 型 船 舶 用 自 己 発 煙 信 号		100
小 型 船 舶 用 火 せ ん		60
消 火 器	自 動 拡 散 型 液 体 消 火 器	200
	小 型 船 舶 用 消 火 器	250
消 火 剤	持運び式又は簡易式消火器用のもの	85
小 型 船 舶 用 船 灯		400
船 灯 の 部 品		85

◎証書等書換又は再交付手数料

船舶検査証書の書換又は再交付	1通につき	2,500円
臨時変更証の再交付	1通につき	1,600円
船舶検査済票の再交付	1組につき	2,900円
臨時航行許可証の再交付	1通につき	1,600円
船舶検査手帳の再交付	1通につき	3,300円

◎予備検査

種 別		検査手数料 (円)
製 造 に 係 る 予 備 検 査	船 体	3メートル未満 5,000
		3以上 5未満 10,000
		5以上12未満 13,000
	内 燃 機 関	25馬力未満 9,800
		25以上 50未満 11,000
		50以上100未満 16,000
		100以上250未満 20,000
		250以上500未満 27,000
	船 内 外 機	25馬力未満 13,000
		25以上 50未満 15,000
		50以上100未満 25,000
		100以上250未満 30,000
		250以上 39,000
	船 外 機	5馬力未満 6,100
		5以上 10未満 10,000
		10以上 25未満 13,000
		25以上 50未満 15,000
		50以上100未満 25,000
		100以上250未満 30,000
		250以上 39,000
	逆 転 機 又 は 変 速 装 置 (馬力)	100未満 1,600
		100以上 250未満 2,000
		250以上 500未満 2,400
		500以上1000未満 3,100
	中 間 軸 プ ロ ペ ラ 軸 (馬力/回転数)	0.3未満 1,600
		0.3以上0.7未満 2,000
		0.7以上2.0未満 3,100
		2.0以上5.0未満 3,900
	小型船舶用膨脹式救命いかだ又は小型船舶用救命浮器	6,300
種 別		検査手数料 (円)
製 造 に 係 る 予 備 検 査	固 定 ビ ッ チ ラ フ ロ ペ ラ	0.2メートル未満 300
		0.2以上0.3未満 500
		0.3以上0.5未満 900
	(プロペラの径)	0.5以上1.5未満 2,300
		10キログラム未満 2,000
		10以上 20未満 3,100
	船 尾 管 (1個の重量)	20以上 50未満 5,300
		50以上100未満 7,600
		100以上500未満 9,900
		100未満 1,400
	船尾軸封装置 (内径ミリメートル)	100以上250未満 2,200
		250以上500未満 3,300
		500以上1000未満 5,100
		1000以上 7,800
	アウトライブ装置	25馬力未満 2,700
		25以上 50未満 4,000
		50以上100未満 7,600
		100以上250未満 9,300
		250以上500未満 13,000
	弾性体のゴムエレメント (馬力/回転数)	0.1未満 300
		0.1以上0.3未満 500
		0.3以上 1,100
	ゴムホース(100メートル又は端数につき)	600
	燃料タンク (1個につき)	600
	遠隔操作装置の制御盤 (1個につき)	1,300
	操 だ 装 置	手動式のもの 4,100
		手動式以外のもの 6,200
	自 動 操 だ 装 置	その他のもの 3,600

「ニッポンカップ」が世界杯シリーズに

世界マッチレース会議(WMRC)は3月12～15日、米カリフォルニア州ロングビーチヨットクラブで総会を開き、今年11月葉山沖で第1回大会が行われる「ニッポンカップ国際ヨットマッチレース」(主催 日本外洋帆走協会・葉山マリナヨットクラブ)について、同組織委員会(委員長:山崎達光)より提出されていた加盟申請を検討した。その結果、

①ニッポンカップがクラブを主体としたレースであること。

②NORCの実績から見て、運営面で不安が無いこと。

③財政的な裏付けがあること。

等の理由から、ニッポンカップをワールドカップ・マッチレースセーリングのシリーズ戦の一つとすることを決めた。

ワールドカップ・マッチレースセーリングは世界の主要マッチレースをそのシリーズ戦とし、年1回その

勝者を集めた最終戦=ワールドカップ・レースを各レース主催クラブの間で持ち回り開催するもの。

第1回のワールドカップ・レースは来年8月にロングビーチで行われる予定だが、このレースに出場権を得るためのシリーズ戦は、これまで世界7大マッチレースと言われていたものにニッポンカップが加わって以下の8戦となった。

リパティカップ(米)87・9/15～20

オーストラリアカップ(豪)87・9/20～25

ニッポンカップ(日)87・11/10～15

コングレッションナルカップ(米)88・3/?

スコードロン チャレンジカップ

(ニュージーランド) 88・4/?

レミントンカップ(英)88・5/?

グルンディヒカップ(仏)88・6/?

キングエドワードⅦカップ(バミューダ)88・7/?

AMERICA'S アメリカズ・カッパー CUPPER

●大阪: **Nikon Salon**

'87年5月9日(日)～5月15日(金)

10:30AM～6:00PM

●新宿: **Nikon Salon**

'87年5月26日(火)～6月8日(月)

10:00AM～8:00PM<最終日6:00まで>

桜井隆彦写真展

日本光学工業株式会社

100 東京都千代田区丸の内3-2-3富士ビル TEL (216)1017(宣伝課)

銀座ニコンサロン

104 東京都中央区銀座3-5-6 TEL (562)5756・5757

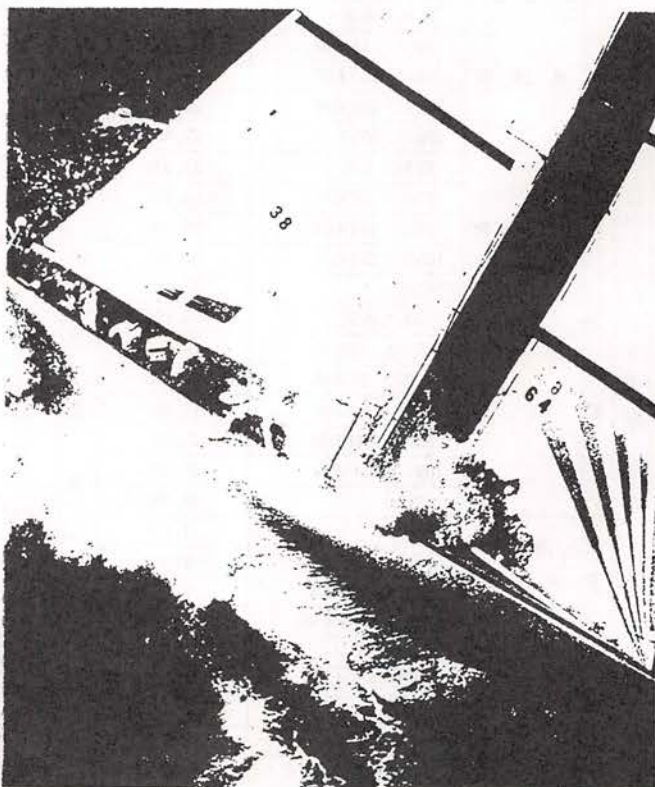
新宿ニコンサロン

163 東京都新宿区西新宿2-2-1京王プラザホテル内 TEL (344)0565・6

大阪ニコンサロン

542 大阪府大阪市東区中津丁36 ナニワフタバビル6階

(大阪府大阪市東区中津丁36 ナニワフタバビル6階) TEL 06(244)1277(会場直通)



1987年日本J/24クラスレディス選手権

レース要項

オリンピックにも女子のヨット種目が登場し、いよいよヨット界にもウーマンパワーの波が押し寄せてきています。お姫様としてクルーザーに“乗せてもらう”ばかりでなく、自分の手で“走らせてみたい”という女性も増えてきています。

そんな女性セーラー達が、5月の連休に集まりJ/24でレースを行ないます。最近、クルーザー各艇に乗っている女性の姿を多く見かけます。周りの女性セーラーに声をかけて、チームを作ってみませんか？日頃、クルーザーでクルーとして活躍している女性、ディンギーでレースを目指している女性、オモリでなくバウウーマンになってみたい女性、食当だけでなくヘルムスウーマンをやってみみたい女性…これを機会にJ/24に乗ってみませんか？

ヨットは男女に関係なく競えて楽しめるスポーツです。貴女もレディースチームで乗ってみれば、またひとつの新しいヨットライフが広がるかもしれません。

普段ヨットに連れてきているガールフレンドや、一緒に乗っている奥様や、男性クルー以上に粘り強く、熱意のある女性クルーを引っぱり出してみませんか？意外と貴男以上に良い腕をしているかもしれませんヨ。

レースの他、女性らしい楽しいパーティーも企画しています。美女たちのお手伝いをして頂ける男性諸氏の協力も大歓迎です。きっと楽しい5月の連休になりますヨ。

1. 開催者

主催 日本 J/24クラス協会

主管 日本 J/24クラス協会関東フリート

2. 期 日

1987年 5月 2 日(土)～ 4 日(月)

3. ホストマリナー

佐島マリナー

横須賀市佐島1457-6

☎0468-56-0141

4. ルール

I.Y.R.U レーシングルール (1985年度版)

J/24クラスルール (1986年度版)

帆走指示書、及び公示

5. 参加資格

(1)全乗員が女性で、半数以上が国内もしくは国際 J/24クラス協会の正准会員であること。

(2)合計10名まで登録を認める。(交代の場合はレース委員会の承認が必要)

(3)艇長及びヘルムスマンは国内もしくは国際 J/24クラス協会の正会員であること。

(4)乗員の合計は3～5名とし、レース期間中乗員の数は同一でなければならない。

(5)乗員の中に小型船舶操縦士免許 4 級以上の所持者が1名以上居ること。

6. プログラム

5月 2 日(土) 13:00 計測, 登録

5月 3 日(日) 9:00 スキッパーズミーティング

10:00 第1レース

12:30 第2レース

18:30 パーティー

5月 4 日(月) 10:00 第3レース

13:00 表彰式

7. レース海面及びレース

(1)レース海面は佐島沖

(2)全レースオリンピックコース

8. スコアリングシステム

(1)得点方法は着順と同じ得点とする。

(例えば 1 位 1 点, 2 位 2 点……)

(2)1 レースをもって成立とする。

(3)失格に代る罰則として、I.Y.R.U 競技規則 3. 2. 1～6 の規定に従い全レースに720度回転を適用する。

9. 計 測

艇体及びセールを計測する。フローティングマークは各艇、計測前につけること。

10. 登録締切りは 5 月 2 日 13:00 とする。

11. 帆走指示書は 5 月 2 日 13:00 迄に配布する。

12. 諸 費 用

(1)エントリイ料 1 艇 20,000円

(2)チャーター料 1 艇 30,000円

13. 申し込み要領

(1)別添の申し込み書を使用

(銀行振込受取書のコピーを貼付の事)

(2)振込先

住友銀行有楽町支店

普通預金 No. 45910

J/24レディースチャンピオンシップ

カメヤマ ミドリ

(3)申し込み先/問い合わせ先

東京都千代田区有楽町2-5-1

有楽町西武 3 階マリンスポーツ

亀 山 翠

☎03-286-5412 (勤務先)

※宿泊のお問い合わせもカメヤマ迄

Big Birthday YOKOSUKA 80

東京湾オープンレガッタ

大会実施要項

[主旨] 横須賀市制80周年を祝し、近代国家の幕開けとなった「黒船」の来航、「咸臨丸」の出航、そして21世紀の海洋日本を代表する「新日本丸」誕生の地浦賀でヨットレースを開催し、海と海の街「よこすか」をアピールすると共にヨット愛好者の親睦と東京湾での海上安全航行の技術向上を計る。

[主催] ビッグパースディ・よこすか80
東京湾オープンレガッタ実行委員会

[共催] 黒船倶楽部（マリンポート・コーチヤ内オーナーズクラブ）

[後援] よこすか80周年イベント実行委員会、横須賀市教育委員会、(株)舵社、横須賀ヨット協会、ヤマハ東京(株)、マリンポート・コーチヤ

[協力] (社)日本外洋帆走協会(NORC)、アリカトレーディング(株)、神奈川トヨタマリン(株)、クリエイティブマリンサービス、ニュージャパンヨット(株)、フッドセイルメーカーズジャパン(株)、マリンサービス児嶋(株)、(株)高知屋造船所

1 実施日 昭和62年5月10日(日)

2 参加要領

- 1) レース海域 東京湾南部 金田湾長沢沖
- 2) 種 目 セイリングクルーザーレース
- 3) 参加対象 ヨット愛好者すべてを対象とする。
- 4) 参加費用 1艇につき¥3,000
パーティー1名につき¥2,000
(小学生は¥1,000)

注① 締切日以降のキャンセルについては返却致しません。

② 当日レース中止の場合は、パーティー費用に充当致します。

3 申込先 マリンポート・コーチヤ

(問い合わせ先) ☎(0468)43-4123

〒239 神奈川県横須賀市東浦賀町2-65
郵送で申込の場合は、上記宛に申込書と参加費を添えてお送り下さい。

4 締切日 昭和62年4月26日(日) (実務処理の都合上、出来るだけ早くお申込み下さい。尚パーティーの追加申込は当日でも受け付けます。)

5 実行委員長 関根 久

山賊と海賊

玄海支部 片倉静江

山から海へ転向して12年の歳月が流れた。話題も専ら海であり、ヨットであり、本屋に入っても海や船に関するものが目につく様になり、まわりは海賊ばかりになってしまった。山と違って、重い荷物をかつぐ事もないし、歩かなくてもすむから嬉しい。しかし運動不足にならない様、仕事の帰りは、桜や柳が交互に植えられた並木道を歩いて帰ったり、ヨット用の燃料も5リッター入りのポリタン下げて町角迄買いに行く。

わずか10年間の山賊とのお付き合いではあったが、その後の12年間の海賊生活を通じ、面白い事を発見した。山賊は「ホルモン音痴」で、海賊は「ホルモン過剰」。これは女性の立場からの観察で、女性にとっては良い意味の音痴であり過剰である。とにかく確かなのは、両者共女性に親切である事。山や海が、女性名詞で呼ばれている事には関係なさそうだ。

例えば、BIRTHDAY SUITの女性が立っていたとする(パースデイスーツ、おわかりかな? 生まれたままの姿)山賊なら、ちらっと見て通り過ぎるか、世

話好きの性格なら「風邪ひきますよ?」とか、「下着位つけたらどうですか?」と注意して行ってしまうだろう。さて、海賊は? 「涼しそうですね? そういう恰好が一番自然でいいですよ。ここに坐りませんか? コーヒーでも?」とか、「衣類を失くした? あ、僕のヨットに着替えがありますから、いらっしやい! どうぞ、どうぞ」etc, etc。

前述した様に、どちらが良い子、悪い子という意味でなく、自然相手のスポーツをやっているオトコ共の共通点は女性に優しい事で、もっと細かく観察すれば、女性に対して、海賊が積極的なのに比べ、山賊は消極的な感じがする。ヨットは風まかせという或る意味で消極的な要素をもっており、山登りはその反対、それなのに性格は全く逆になっているのが興味深い。大体山賊は無口が多く、海賊は弁舌爽やかな人が多い。何はともあれ、海や山でスポーツを楽しんでいる女性にとっては、大変居心地がいい環境ではないだろうか? (違う? 一体どこのハーバー? 報告して下さい。)

遠征先のベースキャンプからいつも絵葉書を下さる山賊がいる。こちらが完全に海に転向している事は知っており、1981年1月、エベレストのベースキャンプからの便りには「行方不明の加藤・小林両隊員を残して下山するのは辛いです」とあった。1979年のK2峰（パキスタン領）登頂者の一人だった彼自身、頂上直下のクレパスに落ち込み、あわや遭難か？ とベースキャンプの連中を青くさせたが、仲間の落ち着いた救助により這い上がり、二人は見事第一登を成し遂げている。彼はその翌年にもチヨゴリ峰（K2峰の中国名）を中国から登る計画の試登隊員として中国入りし、

この時もベースキャンプから絵葉書を頂いた。中国の切手も珍しかったが「片倉船長様」が気に入った。約5千米の高度にあるキャンプから、ゼロ米の海で遊ぶ船長への便りは貴重なもので、以前フンザの王様やチトラル（パキスタン領）の王様から頂いた手紙と一緒に大事に保管している。

お互に自然を相手のスポーツ、イタリアの名登山家メスナー氏の言葉を借りれば「山では、自然の法則に従ってさえいれば生き残れる」と。足が地についていない海は尚更だと思う。「海は、海を理解する人に味方する」という言葉を思い出した。

1987 NORCルール委員会 名簿

委員長：石井正行

〒236 神奈川県横浜市金沢区片吹113-3

☎045-783-2166(自), 03-541-7557(勤)

副委員長：平松栄一

〒158 東京都世田谷区尾山台1-11-18

☎03-701-3067(自)

副委員長：周東英卿

〒143 東京都大田区中馬込1-11-1

☎03-771-7678(自), 03-437-6137(勤)

大村雅一（関東支部）

〒141 東京都品川区東五反田1-25-19-202

☎03-443-2151(自), 03-521-2961(勤)

(EX. 205)

高村 孝（関東支部）

〒168 東京都杉並区久我山2-18-21

☎03-331-5823(自), 03-472-8271(勤)

鳥本洋一（関東支部）

〒352 埼玉県新座市新堀3-6-31

☎0424-92-3379(自), 03-252-2919(勤)

平松 隆（関東支部）

〒152 東京都目黒区上目黒5-17-17-402

☎03-791-9851(自), 03-278-4825(勤)

藤田 亨（関東支部）

〒215 神奈川県川崎市麻生区上麻生2-17-5

☎044-966-3176(自), 03-241-4422(勤)

松崎義邦（関東支部）

〒240-01 神奈川県三浦郡葉山町長柄

1642-425

☎0468-75-6410(自), 03-747-5292(勤)

三宅智久（関東支部）

〒245 神奈川県横浜市戸塚区上飯田254

☎045-802-5902(自), 03-480-1123(勤)

海老名俊男（北海道支部）

〒047 北海道小樽市稲穂4-12-17

☎0134-25-4182(自), 0134-29-0000(勤)

上河睦美（津軽海峡支部）

〒041 北海道函館市神山1-7-7-201

☎0138-53-1928(自), 0138-52-1112(勤)

浅井一省（駿河湾支部）

〒424 静岡県清水市草薙1898

☎0543-46-9602(自), 0559-63-5151(勤)

都築勝利（東海支部）

〒444-13 愛知県高浜市吉浜町小池50

☎0566-53-3484(自), 052-241-4121(勤)

秋山福夫（近畿北陸支部）

〒607 京都府京都市山科区清水焼団地

☎075-592-0415(自), (勤)

浜永 裕（内海支部）

〒553 大阪府大阪市福島区福島3-49-207

☎06-452-5304(自), 078-341-7441(勤)

(EX. 3391)

佐伯敏則（西内海支部）

〒730 広島県広島市南区出島1-4-7

☎082-255-3522(自), (勤)

原田芳治（玄海支部）

〒814-01 福岡県福岡市中央区笹丘3-27-40

☎092-714-2413(自), 092-281-5877(勤)

保井明博（沖縄支部）

〒901-11 沖縄県南風原町字兼城3-1-7

☎0988-89-7859(自), 0988-79-3756(勤)



船の儀礼の話

運輸省航海訓練所 教授

橋 本

進

人と人との間にも挨拶があり、礼儀が重んぜられるように、船と船あるいは船と陸上との間にもそれなりの儀礼があります。

船の儀礼は大別すると次のようです。

- (1) 敬意を表わすとき
- (2) 祝意を表わすとき
- (3) 弔意を表わすとき

(1) 敬意を表わすとき

他船又は陸上に対して敬意を表わすとき、すなわち“敬礼”をする方法には次のようなものがあります。

① 国旗による敬礼

一般商船は軍艦及びそれに準ずる船（例えば沿岸警備船、練習船等）に対して、その国籍がどこであれ、敬礼をするのが常識です。

船の敬礼は航行中に行うのが普通ですが、時には停泊中であっても付近を航行中の他の艦船との間で敬礼を行う場合もあります。そしてこの敬礼は船尾に掲揚してある国旗によって行います。その方法は図1のように敬礼船が国旗を半ば下げて敬礼することで始まります。敬礼を受けた船は同じく国旗（軍艦旗、自衛艦旗も含みます。）を半ば下げ、再び全揚します。これが答礼となります。敬礼船は、答礼船が国旗を全揚したのをみて、またもとのように国旗を全揚します。これで国旗による敬礼が終了します。もちろん、指揮者の指令によって行います。

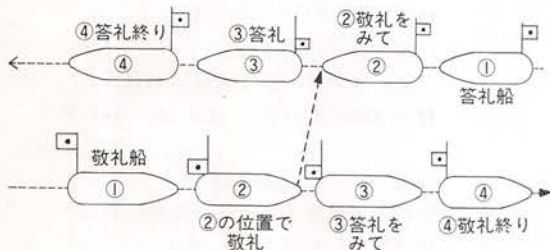


図1 国旗による敬礼と答礼

② 登舷礼（とうげん礼）

全乗組員が露天甲板舷側上に船首から船尾まで横一列に整列して行う敬礼で、軍艦、練習船でよく行われます。

③ 登橋礼（とうしょう礼）

帆船で行われる敬礼で、乗組総員がマスト及びヤード（帆げた）に登り、特にヤード上では一列に並び、あるいはヤード上に立って肩を組み、相手船に敬意を表するもので、帆船では最高の儀礼とされています。登桁礼（とうこうれい）と呼ばれることもあります。

④ 礼砲（れいほう）

礼砲は軍艦が行う儀礼で、日出から日没までの間に行われるもので、夜間には行いません。

軍艦同士、あるいは陸上との間で実施されますがもちろん空砲です。礼砲数の基準は大体次のようなもので、発射間隔は約5秒が標準です。

国旗・元首、大統領、皇族	21発
首相その他の国賓、特命全權大使	19発
閣僚、陸・海・空軍大将	17発
特命全權公使、中將	15発
臨時代理大使、少將	13発
臨時代理公使、総領事、准将	11発
領事	7発

わが国の陸上の礼砲台は東京湾口の観音崎にあり、儀礼上の必要があれば、この場所で礼砲の交換が行われます。

(2) 祝意を表わすとき

国の祝日、進水式あるいは特別の行事等で祝意を表わすときには、次のような方法で表現します。一般に停泊中のみ行います。

① 船飾（せんしよく）

図2のようにフォアマスト（前部マスト）に国旗、メインマスト（後部マスト）に国旗と社旗を上下に掲揚し、更にジャックスタフ（船首旗等）に社旗、船尾旗竿に国旗を掲揚するもので、三橋旗（さんしょうき）とも呼ばれます。国旗と連揚する社旗は、国旗より大きいものを使用してはなりません。

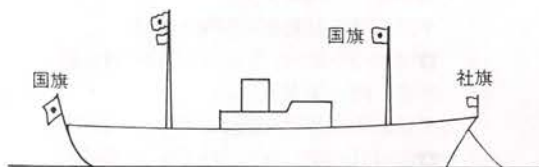


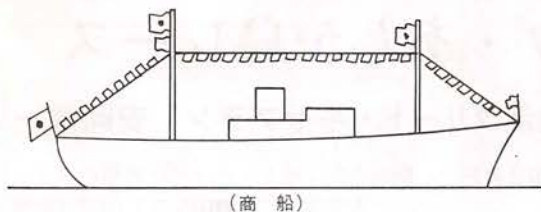
図2 船飾

② 満船飾（まんせんしよく）

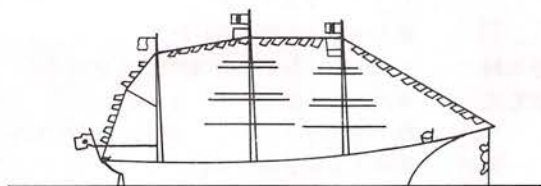
図3のように船飾に加えて、船首から各マストを経て船尾の間に国際信号旗を一連につづり合わせて掲揚するもので、最も華やかな祝意の表現です。

帆船では船首のパウスプリット（船首斜橋）の先端から水面に垂らします。

軍艦の場合には満艦飾（まんかんしよく）と呼ばれます。



(商 船)

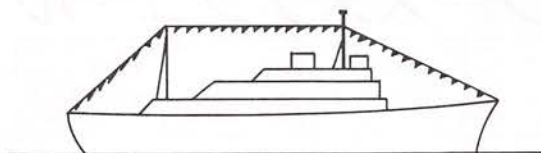


(帆 船)

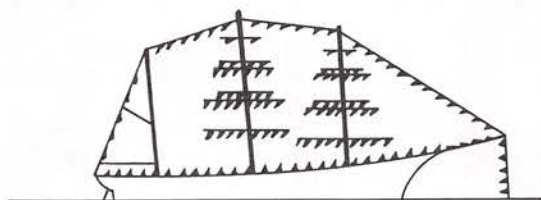
図3 満船飾

③ 電灯船飾

単に電飾（でんしょく）ともいい、夜間、白色電灯を使って図4のように照明するもので、昼間の船飾又は満船飾に引き続いて行う場合が多いようです。



(商 船)



(帆 船)

図4 電灯船飾

(3) 弔意を表わすとき

船舶で弔意を表わすとき、例えば国葬又はこれに準ずる国の功労者の葬式、船内での葬式等のときには国旗及び社旗を半旗（はんき）にして行います。

半旗というのは国旗及び社旗を半揚の状態にしますが、最初から半揚するのではなく、いったん全揚してから半揚の位置にします。また半旗を降下する場合も、一度全揚してから降下するのが正式ですから注意しましょう。

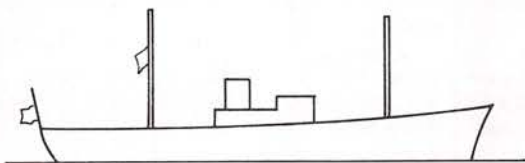


図5 半旗による弔意

(4) その他

① 艦船への出入

内地、外地を問わず、軍艦又はこれに準ずる艦船の舷門を入る場合には、先ずその艦船に掲揚されている軍艦旗（国旗）に向かって敬礼し、次に当直士官又は当直員に敬礼します。舷門をでる場合にはこの逆となります。

② ポート等の敬礼

ポート等の敬礼は次の要領で行いますが、一般的には指揮者のみが起立して挙手の敬礼を行います。しかし、状況によってはすべてを取り止め、指揮者の挙手の敬礼のみにすることもあります。

(イ) 機走行

運転を停止します。

(ロ) とう漕中

かい（オール）を立てます。「クラッチ」を備えてあるため、オールを立てることができないときには、オールをあげるだけでよい。

(ハ) 帆走行

総帆を降ろします。

(ニ) ろ漕中

ろをあげます。

敬礼を受けたポート等では、乗艇中の最上位者が挙手による答礼を行い、他の乗艇者はそのまま姿勢を正します。

③ ポートへの乗降と席順

交通艇あるいはポートに乗るときには下位者が先に、上位者があとに乗ります。降りるときは（艦船へ乗る場合、上陸する場合）上位者を先とし、下位者はあとになります。

ポート内の席順は図6のとおりです。座席が船首側にあるか、船尾側にあるかによって異なりますので注意しましょう。

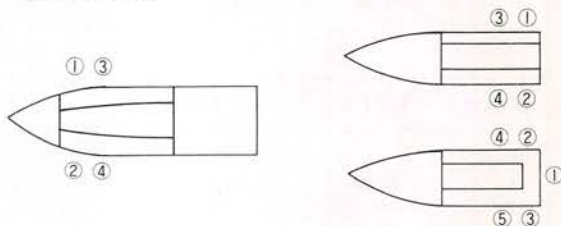


図6 ポートの席順

④ 外国に停泊中の船

外国に停泊中の一般船舶は、その国の国旗をマスト（前部）に掲揚する慣習があります。これはその国に敬意を表するためです。

以上、船での儀礼について簡単に述べました。船乗りの“マナー”として知っておくと礼を失することもないでしょう。

〔(財) 日本船舶職員養成協会 機関紙

JEIS MATE NO 7 から転載〕

サンマリーナ・カップ・あしか島レース

横浜フリート・キャプテン 安岡信一

この度、株式会社サン・マリーナの後援により例年行っています、あしか島レースを次の様な要項で開催致しますので、東京湾に居られるヨットの皆様奮って御参加下さい、相模湾の皆様もお待ち申し上げています。

日 時 4月26日(日) 9:00スタート
コース 横浜材木港沖——あしか島(反時計)
——横浜材木港沖
レーティング NORC クルーザーレーティング(無い艇はご相談下さい)
艇長会議 4月25日(土)午後7時より
横浜市民ヨット・ハーバークラブハウス

申込み先 横浜市民ヨット・ハーバー内横浜フリート 安岡信一 ☎045-761-0437(加藤ハーバーマスター)
横浜市民磯子区磯子町1-5-28
参加料 3,000円 パーティ代艇長分を含む
表彰式 4月26日 午後5時30分より
横浜市民ヨット・ハーバークラブハウス
パーティ 表彰式後同じ場所に於いて
パーティ料 1名 1,500円
その他、1, 2, 3位, 参加賞, 飛び賞等多数有り。
レースの為の臨時係船に付いてはご相談下さい。

1987年度 関東支部 レーススケジュール

レース名	初島即月レース	初島レース	第10回関東支部 フリート対抗レース	第37回 大 島レース	第32回 神子元島 レース	第24回 小 網 代 カップレース
コ ー ス	小網代(48哩) ↓ 初 島(反) ↓ 小網代	小網代(48哩) ↓ 初 島(反) ↓ 小網代	第1 R 三 角(20哩) 第2 R S. O(48哩) 第3 R 三 角(20哩) 第4 R 三 角(20哩) 第5 R L. O(85哩)	葉 山(85哩) ↓ 初 島(反) ↓ 大 島(反) ↓ 葉 山	江の島(105哩) ↓ 神子元島(反) ↓ 江の島	小網代(65哩) ↓ 大 島(時) ↓ 小網代
スタート	4 / 4 (日) 11:00	5 / 16 (日) 17:00	第1 R 5 / 16 10:00 第2 R 5 / 16 17:00 第3 R 5 / 23 10:00 第4 R 5 / 24 10:00 第5 R 5 / 30 11:00	5 / 30 (日) 11:00	10 / 10 (日) 12:00	11 / 22 (日) 11:00
申込締切	4 / 1 (木)	5 / 1 (金)	5 / 1 (金)	5 / 15 (金)	9 / 25 (金)	11 / 6 (金)
出艇申告 および 艇長会議	4 / 4 (日) 08:00 シーボニア	5 / 16 (日) 15:00 シーボニア	連絡会議および艇長会議 5 / 11 (日) 18:30 NORC本部	5 / 29 (金) 18:30 NORC本部	10 / 9 (金) 18:30 NORC本部	11 / 22 (日) 07:30 シーボニア
参加資格	JORI-VII ORC-4 NORC-C	JORI-VII ORC-4 NORC-C	JORI-VI ORC-3 NORC-B	JORI-VII ORC-4 NORC-C	JORI-VII ORC-4 NORC-C	JORI-VII ORC-4 NORC-C
担 当	諸 磯	シーボニア	関東支部	葉 山	江 の 島	小 網 代
	艇申込料 4,000円/艇 乗員参加料 会員 2,500円/人 非会員 5,500円/人 クルーザーレーティングクラス 出艇料10,000円/艇	左に同じ	艇申込料 クラスVI 35,000円 クラスV 40,000円 クラスIV 45,000円 クラスIII以上 50,000円	艇申込料 4,000円/艇 乗員参加料 会員 2,500円/人 非会員 5,500円/人 クルーザーレーティングクラス 出艇料10,000円/艇	左に同じ	左に同じ

フルーザーレーティング 沿岸レース日程表

4月12日(日).....油壺	8月30日(日).....葉山
5月3日(日).....三崎マリン	9月6日(日).....シーボニア
6月21日(日).....小網代	10月4日(日).....葉山
7月5日(日).....葉山	11月8日(日).....油壺・諸磯

スタート 11時

問い合わせは各担当フリートへ。

S.Y.C・L.W.Y.C共催 ビワコクラス別チャンピオンカップレース

Sail No.	艇名	艇種	着順	所要時間	着順	所要時間	総合順	所属
3/4クラス								
2976	くんびいら	YAM-R34	2	1:02:19	1	59:33	1	LWYC
82	BX-1	X-99	1	1:02:03		D.N.S	2	LWYC
1/2クラス								
3566	TENACIOUS	YAM-R30	2	1:05:21	1	1:05:00	1	S.Y.C
3587	P & B	FIR-8	1	1:03:45	2	1:06:08	2	S.Y.C
2022	めるへん	YAM-R30	4	1:09:51	3	1:06:09	3	柳が崎
3448	HYOTTOKO4	FARR-30	3	1:07:34	4	1:06:20	4	S.Y.C
3356	アスター	YAM-30ST	5	1:09:58	5	1:07:02	5	LWYC
3271	OASIS	TAK-26S	6	1:11:41	6	1:13:14	6	LWYC
2833	アグネス	YAM-26SS	7	1:17:54	7	1:14:32	7	LWYC
1/4クラス								
377	スノッピー	YAM-26S	1	1:17:53	1	1:19:31	1	LWYC
3583	SUPER SPIRIT	YAM-26SC	2	1:18:16		D.N.F	2	雄琴
2682	ラム	YAM-26S	3	1:23:14		D.N.F	3	LWYC
1/8クラス								
3324	CREEK	KAN-23	1	1:02:52	1	1:07:03	1	LWYC
3370	MIX MAX	KAN-23	2	1:04:22	2	1:07:19	2	LWYC
3257	ワンダーボーイ	TAK-1/8	3	1:08:20	3	1:16:18	3	LWYC
3543	Mis TAKO	YAM-21RC	4	1:18:06	4	1:19:32	4	井筒
J-24クラス								
2874	ウェザーレポート	J-24	1	1:05:52	1	1:05:58	1	LWYC
2673	HAYATE IV	J-24	2	1:24:30	2	1:17:02	2	柳が崎

主管 NORC近畿北陸支部レース委員会
開催日 3月15日 NE 6~9m/sec

帆走委員長 三井 祥功

お元気ですか？

内海支部事務局から

ハーバーでは、船底そうじに精を出す姿が多く見られる季節になりました。内海支部では4月11、12日“春の大運動会”のキャッチフレーズで第12回舵杯ヨットレースが、木場ヨットハーバーで行われます。ハーバーに隣接する木庭山でお花見をしながらレース見物会等、数々のイベントが企画されています。5/3～5/5オレンジカップレース(サントピア)5/4ランデブ(徳島)と企画されています。

第13回オレンジカップレース 御案内 第6回オレンジフェスティバルレース(内海支部事務局)

拝啓 春寒の候 益々御隆昌のこととお慶び申し上げます。ヨットマンの皆様にとってこれからのシーズンインに備え愛艇の整備に取り掛かられていることと存じます。

さて、恒例のオレンジカップレースは5月の3連休に開催することになり、昨年同様多数の参加艇があるものと期待しています。

今年はアメリカズカップに始まり、メルボルン→大阪国際ヨットレースが大々的に開催され、日本中がヨットレースに注目し、ヨット界がますます華々しくなってきました。これを機会に今までヨットレースに無縁の方は是非4日に開催するお祭レース、オレンジフェスティバルレースの方に参加し、春の大阪湾一杯スピンの花を咲かそうではありませんか。参加要領は以下の通りです。是非御参加下さい。 敬 具

◆オレンジカップレース明細

1. 日程 昭和62年 5月3日(日)～5月5日(祝・火)
出艇申告(全レース) 5/3 6:00～7:00
艇長会議(全レース) 5/3 7:00～7:30
第1レーススタート 5/3 9:00
コース オリピックコース
タイムリミット スタート後4時間
第2レーススタート 5/3 14:00
コース オリピックコース
タイムリミット スタート後4時間
オーナーズパーティー(場所未定)
第3レーススタート 5/4 7:00

内海支部の皆様へ

NORC 内海支部は、(社)日本外洋帆走協会(NORC)に所属する会員で、大阪 兵庫 和歌山 奈良 岡山 徳島 香川を主な活動ベースとされている方々の自主的なクラブ活動でなり立っています。[注(社)日本外洋帆走協会(NORC)本部は公益法人であり、支部はその自主的なクラブ活動により運営されるものであり、法人等の格をもったものではありません。] したがって、支部活動は、事務局をはじめ、役員委員すべてメンバーシップを通じたボランティア活動が支部運営の核でもあり、おのおの各自の仕事を持つ人々より貴重な時間と労力の提供をしていただき、年間の支部のスケジュールに取り組んで活動を盛り上げて頂いております。内海支部メンバーの皆様、ヨットを通じた全国的な組織である NORC の中での内海支部活動を今一度御理解いただき、今後とも支部運営に御協力頂きますようお願い申し上げます。

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| コース | 沼島廻航コース |
| タイムリミット | 5/4 18:00 |
| ※第3レースはクラスⅠとしてのフェスティバルレースを兼ねる。 | |
| オレンジカップ祭及びフェスティバルレース表彰式 | |
| | 5/4 18:30～20:00 |
| (場所) | プールサイド及び陸置場 |
| 第4レーススタート | 5/5 8:00 |
| コース | 洲本沖三角コース |
| タイムリミット | 5/5 15:00 |
| オレンジカップ表彰式 | 5/5 16:00 |
| (場所) | プールサイド |
2. 参加資格 全長20呎以上のキャビン付バラスボートでレース委員会が認めた艇
 3. 安全規則 カテゴリーⅢに準ずる
 4. 乗員制限 3名以上
 5. レーティング JOR 及び IOR
 6. 得点方法 各艇の所要時間をレース委員会で決められたレーティングで修正し各レースの順位を算出し4回の得点の和をもって総合順位を決める。
得点 1位……隻数+1/4 2位……隻数-1
3位……隻数-2
第1, 2レース 掛率 1.0
第3レース 〃 1.5
第4レース 〃 1.2
 7. 賞 1位～5位 プービー賞
洲本市長杯 スポンサー賞
飛び賞 第13位賞

8. 費用 エントリーフィー
参加艇1艇につき 30,000円
サントピア所属長 25,000円
乗員1名につき 1,000円
パーティー賞及び4/26~5/10までの係留料は無料
9. オーナズパーティー
5月3日午後6時30分(予定)よりのオーナズパーティーに無料御招待致します。但し、御招待はオーナー1名でプレザーを着用下さい(場所未定)
10. 参加申込締切日 4月5日(月)
11. 参加申込先
〒656 洲本市古茂江1276
サントピアマリーナ内
サントピアヨットクラブ事務局 ☎0799-24-1694

◆オレンジフェスティバルレース明細

1. 日程 昭和62年5月4日(月)
- | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|
| 出艇申告 | 5/4 | 9:00~10:00 |
| 艇長会議 | 5/4 | 10:00~10:30 |
| スタート時間 | 5/4 | 12:00 |
| タイムリミット | 5/4 | 17:00 |
| コース | 洲本沖三角コース | |
| オレンジカップ祭及びフェスティバルレース表彰式 | 5/4 | 18:00~20:00 |
| 〈場所〉 | プールサイド及び陸置場 | |
2. 参加資格 全長20呎以上のキャビン付バラストボートで本レース委員会が出場を認めた艇

3. 安全規則 乗員数以上のライフジャケット搭載
4. 乗員制限 2名以上
5. レーティング JORに基き主催者独自の方法でレース委員会が決定
6. 賞 修正1位……優勝カップ、洲本市長杯
7. 費用 エントリーフィー
参加艇1艇につき 5,000円
サントピア所属艇 3,000円
乗員1名につき 1,000円
パーティー費及び5/3~5/5の係留料は無料
8. オーナズパーティー
レース前日5/3午後6時30分(予定)よりのオーナズパーティーに無料御招待致します。但し、御招待はオーナー1名でプレザーを着用下さい(場所未定)
9. 参加申込締切日 4月5日(日)
但し参加艇が50艇を越えた場合は締切ります。(先着順)
10. 参加申込先
〒656 洲本市古茂江1276
サントピアマリーナ内
サントピアヨットクラブ事務局 ☎0799-24-1694



内海支部の皆様

NORC内海支部長

メルボルン/大阪ダブルハンドヨットレース委員長

秋田 博正

すでに新聞などでご存知のように、メルボルン/大阪ダブルハンドレースは、3月21日に大阪に向けてメルボルンをスタートしました。

このレースを公表した時点では、これまでの長距離レースの実績から考えて、まさかこれほどの反響があるとは予想していませんでしたが、昨年末エントリーを締め切った結果では、10ヵ国90艇という初めてのレースとしては前例のないエントリー数となり、関係者一同喜んでおります。

しかし、これだけの艇、しかも大部分の艇が日本は初めてという艇が、4月下旬から到着し始め、おそらく5月の連休頃には続々とフィニッシュ、その後もレースが長距離なだけに1ヶ月以上にわたって大阪にやってくるであろうと考えると、それを受け入れるコミッティーは大変な仕事量になります。大阪での受け入れに必要な艇は延300隻以上、人員は延1000人以上になると試算されています。夏休み期間ではないため、学生諸君を余り期待できず、人員の確保に苦慮してお

ります。

折柄ゴールデンウィークにあたり、御予定もおありかと存じますが、レースを成功させると共に、世界のヨットマンを歓迎するため、皆様のご協力をお願い致します。

当初計画時には、もっと少ないエントリーを予想していたため、予算不足で十分な事は出来ませんが、交通費、食事などでご迷惑を掛けないようにだけはしたいと思っております。以上の事情をお汲み取りの上、何分にも宜しく願いいたします。

なお、ご協力下さる方は、その期間などを下記まで葉書などでお知らせください。日程調整の上スケジュールをご相談したいと思っております。

以上

葉書の送付先：〒552 大阪市港区築港2-1-2

第一大阪港ビル

大阪港振興協会 竹内 篤子

新登録艇の紹介

セール番号、艇名、帆装、フリート、全長×
水線長×巾×吃水、オーナー名、その他の順
☆印は会友艇

3700 BOOMERANG 横山30S 日産マリーナ東海
9.5×7.4×3.3×1.8 加藤 強/艇名の由来:オース
トラリアのブーメランは獲物を叩きのめし、確実に手
元へ戻ってくるといわれます。我々ブーメランはレー
スに出れば敵を倒し安全に港へ戻ってくるとい意味
です。/抱負:今までのJ/24のノウハウを生かし、
IORポートでNORCのチャンプに挑戦したい。など
と希望はデカイが、IOR初心者集団ゆえにNORCの
皆様様よろしく願いいたします。/クルー:顔は悪
い、性格は悪い、ヨットはヘタだわ、史上最悪の
クルー集団。8名ほどいますが、気が合う事なし。メ
チャクチャだ。/船の上。

青波行 関西ヨットクラブ 9.72×7.50×3.29×1.86
原 均

3699 NOVA 40 ワンオフ 霞が浦 9.00×7.20×
3.10×1.70/艇名の由来:40歳を記念して、新しい星
の如く光り輝く艇となるように。/抱負:鳥羽パール
レースにあっさり勝つこと。/クルー:愛妻と愛息。
その他大勢。/NORCへの要望:ヨットクラブの面
と公益法人としての面を、もっと明確に二極化する必
要時であると思います。ヨットクラブとしての活動は水
域毎の活動であり、NORCの素晴らしいスピリットを
受け継いで育ててゆくべきクラブとクラブハウスが必
要です。公益法人としての面では、例えば舟艇登録を
一本化する(5トン以上は都道府県の水産課:漁船扱
い)とか、各地でのマリーナの計画に積極的に参加す
るとか、法制面での整備に対して実情をアピールする
とか、いろいろ考えられると思います。

OFFSHORE 第145号 昭和62年4月15日発行
毎月1回15日発行
昭和52年7月21日 第三種郵便物認可
1部定価300円(郵送料45円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会
東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)
電話・東京03(504)1911~3 〒105
郵便振替番号2-21787
印刷 正進社印刷株式会社

ヨット&ボートの本格派月刊誌

ヨッティング

Yachting

SAIL & POWER GRAPHIC MAGAZINE

5月号

4月10日発売
オールグラビア&オフセット
A4変型 定価850円



エッセイ 石原慎太郎/菅能琇一

ニッサンJ29・J24
トンプソン28ffアドベンチャー

●ヨットガイドダンス

B・ビンガム「セイラズ・スケッチブック」

(大反響連載)

東京ボートショーセレクション

第2特集 1987 Yachting Catalogue

今年「海遊カタログ」

「87海遊カタログ」

「素晴らしきヨットクラブ探訪」

「三つのクラブに見る本物のクラブライフ」

「南東南」

「サンディエゴ」

「ニューヨーク」

「第1特集」

「DOWN SOUTH パース」

「WEST COAST サンディエゴ」

「EAST COAST ニューヨーク」

〒141 東京都品川区東五反田3-6-18

立風書房

TEL447-1191 振替 東京5-74493